

## 課題

### 日本の森林資源をサステナブルに活用する、 「次世代のまちづくり」を企画せよ

ウッドフレンズでは、戸建住宅等での国産木材利用を通じて、森林の価値向上を目指しています。現在、約40%台に留まっている日本の木材自給率を向上させるためには、従来にない新たな発想で国産木材を活用していく必要があります。そこで、国産木材の魅力や、林業の大切さ・課題等を踏まえた上で、日本の森林資源を活用する「次世代のまちづくり」を企画します。

## 解決策

### 幼老複合施設を中心とした3世帯で暮らせる サステナブルな街をつくる

#### 課題解決の方向性 【考え方】

高齢化や晩婚化が進む現在、子育てをしながら親の介護もしなければならない未来がくると考えた。このため、生物多様性の保全や気候変動に配慮し、国産木材で作られた幼老複合施設や子育てのしやすい住宅のある、サステナブルな街をつくらうと考えた。

#### 環境的課題

- 人工林の荒廃
- 生物多様性の損失
- 気候変動

#### 社会的問題

- 晩婚化
- 核家族化
- 少子高齢化

#### 目指す未来

国産木材を利用した幼老複合施設を中心とした、三世帯で暮らせる、  
住むだけで環境課題の解決にもつながるまちづくり

#### 街の特徴

- 1 幼老複合施設が街の中心となっているので、子育てと介護を両立させやすい。
- 2 街の中には木材を活用した休憩スペースやインクルーシブ公園があり、子供や高齢者だけでなく幅広い世代の方が交流しやすい。
- 3 木質バイオマスの活用や収穫、植林、育林のサイクルを行いながらまちづくりを行うため、住むだけで環境課題の解決に貢献できる。

#### 幼老複合施設について

保育園や学童保育などの児童施設と、グループホームや養護老人ホームなどの高齢者施設を併せた施設

子供の  
社会性育成

高齢者の  
孤立感軽減

世代間の絆や  
コミュニティ形成

#### ウッドフレンズの強みを生かしたまちづくり

ウッドフレンズの住宅は高耐震、高耐久、高品質が特徴であり、たとえ大きな地震が来ても安心でき、さらに次世代まで暮らすことのできる住宅を提供することができる。

#### 持続可能な社会へのポイント

- 休憩スペースやインクルーシブ公園を設置することにより、子供から高齢者まで幅広い世代の健康や福祉の支援を行える。
- 子供から高齢者まで幅広い世代にやさしい都市設計をすることにより、持続可能なまちづくりを推進できる。
- 国産木材を活用することにより、持続可能な資源利用と地域経済の活性化が見込める。



## 研究員メッセージ

当初私たちは、街をつくるという大規模な課題に対して、どのようにアプローチするべきか、想像が付きませんでした。しかし、日本が抱える問題と森林資源の活用、そしてウッドフレンズの強み、という三つの軸に加え、「私たちが住みたい街」という視点を取り入れ議論を重ねた結果、次第に解決策の方向性が見え始めました。私たちが考えた提案が、2050年に向けた持続可能な未来の創出に貢献できることを願っています。

#### チーム ウッド フレンズ

愛知県立大学 3年 安藤晴紀 南山大学 3年 小幡花音  
愛知教育大学 2年 峠谷歌音 名古屋産業大学 2年 富田卓介  
中部大学 2年 松永蓮平

#### ファシリ テーター

ビोटープ・  
ネットワーク中部  
会長 長谷川明子

